

## 医療法人 光晴会病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の間い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題	Normo-, Micro-, Macroalbuminuria における eGFR 低下率、末期腎不全に至る推定年数の検討
所属(診療科等)	糖尿病センター
研究責任者 (職名)	赤澤 昭一 (医師)
研究目的	糖尿病腎症: Normo-(1期)、Micro-(2期)、Macroalbuminuria(3期)における eGFR 低下率、末期腎不全に至る年数(Y-ESRD)を検討した。
調査データ 該当期間	2015年8月~2022年3月
研究内容	<p>①1, 2, 3期における eGFR 年間低下率(<math>\text{ml}/\text{min}/1.73 \text{ m}^2/\text{year}</math>)はそれぞれ <math>-0.871</math>, <math>-1.883</math>, <math>-3.027</math> であり、Y-ESKD(年数)はそれぞれ、75.4, 27.3, 13.3 年であった。</p> <p>②eGFR 低下に関する因子を重回帰分析(性、年齢で adjust した)で検討した。1期において HbA1c(<math>r=0.173</math>, <math>p&lt;0.05</math>), 2期において HbA1c(<math>r=0.157</math>, <math>p&lt;0.05</math>) と有意な相関を認めた。一方3期においては尿蛋白(<math>r=0.320</math>, <math>p&lt;0.01</math>)と有意な相関関係を認めた。</p> <p>③HbA1c7.5%および eGFR60 を cut off 値とし、各群の eGFR 低下率、ESRD に至る年数を検討した。eGFR 低下率は腎症1期では HbA1c&lt;7.5%群は<math>\geq 7.5\%</math>群に比べ、<math>-0.543</math> VS. <math>-1.906</math>, 2期は<math>-1.757</math> VS. <math>-2.259</math> であり、3期の尿蛋白&lt;2.25群は、尿蛋白<math>\geq 2.25</math>群に比べ、<math>-2.01</math> VS. <math>-4.648</math> であった。ESRD に至る年数も加味した場合、1, 2期において eGFR<math>\geq 60</math> and HbA1c&lt;7.5%の群が最も良好で、eGFR 低下率、末期腎不全に至る年数はそれぞれ(1期: <math>-0.521</math>, 133年)(2期: <math>-1.916</math>, 33.8年)であった。</p> <p>一方、最も不良群は eGFR&lt;60 and HbA1c<math>\geq 7.5\%</math>で(1期: <math>-3.19</math>, 12.9年)(2期: <math>-2.941</math>, 11.9年)であった。3期において最良好群は eGFR<math>\geq 60</math> and 尿蛋白&lt;2.25群で(3.181, 20.1年)であった。3期において最不良群は eGFR&lt;60 and 尿蛋白<math>\geq 2.25</math>群であり、(<math>-4.677</math>, 6.4年)であった。</p> <p>④1期 145名(年齢 <math>59.9 \pm 13.8</math> 歳, HbA1c <math>6.9 \pm 1.1\%</math>, eGFR <math>79.6 \pm 18.3</math>, 尿中 albumin(UAC) <math>1.0 \pm 7.3 \text{ mg}/\text{gCr}</math>)、2期 205名(年齢 <math>66.1 \pm 12.4</math> 歳, BMI <math>25.2 \pm</math></p>

	<p>HbA1c<math>7.0 \pm 1.1\%</math>、eGFR<math>74.1 \pm 23.5</math>, UAC <math>72.5 \pm 58.3\text{mg/gCr}</math>、3期 95名(年齢<math>65.0 \pm 11.9</math>歳, HbA1c<math>7.1 \pm 1.1\%</math>、eGFR<math>55.7 \pm 20.5</math>、尿蛋白(UPC)<math>1.57 \pm 1.57\text{g/gCr}</math>)を対象とした。②metabolic controlの影響を受けやすい初期1年間は除外し、1-5年(4年間)にわたるeGFRの回帰直線のslopeをLinear Mixed Modelを用い解析し、そのslopeから年間低下率、末期腎不全(ESRD)に至る年須(Y-ESKD)(=Intercept-15/slope)を計算した。各群のslopeはLMMのfixed effect,各個人のslopeはrandom effectから計算した。また③年間低下率と各因子との相関関係を検討した。④腎症1、2期においてHbA1c<math>7.5\%</math>、3期 eGFR60,尿蛋白(g/gCre)2.25をcut off 値とした各群において比較検討した。</p>
個人情報の取り扱い	対象は糖尿病透析予防を受けている患者さんであり、開始の際同意を得ており、また、後ろ向き研究であり、診療時の臨床結果を使用している。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ	<p>病院代表：095-857-3533 (内線：2215)          担当者：総務課 (川田)</p>